

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

散歩のついでに富士山に登った人はいない

『光陰矢の如し』ということわざがあります。「月日の過ぎるのは矢が飛んでいくようにはやい」という意味で、「日々を無駄に過ごしてはいけない」という事を戒めています。

本当に月日の経つのは早いもので、本日二学期の終業式を迎えました。二学期は、遠足やコーラスコンクールなどの行事の他、3年生はオーストラリア、5年生はヨーロッパにでかけました。その他様々な取組みがあり、多くの成果を収めることができました。

6年生は卒業考査の翌日から早速大学入試対策講座が始まっています。今まさに正念場です。これからは健康に十分留意し本番で力が発揮できるように準備してください。また、他の学年は明日から冬期セミナーが始まり、来週には三者面談も控えています。中々、休み気分にはならないと思いますが、時間を有効に使い充実した生活を送ってください。

さて、冬休み中に 2019 年が幕を開けます。新鮮な気持ちで新しい一歩を踏み出したいものです。そこで、今号では「散歩のついでに富士山に登った人はいない」という言葉を紹介したいと思います。この言葉は経営コンサルタントの小宮一慶（かずよし）さんの本の中に出てきます。小宮さんによると「結果的にことを成す人」と「努力しているのになかなか結果が出ず報われない人」には違いがある。そして、「散歩」と「富士山を登る」を比べた場合、「散歩のついでに富士山に登った人はいない」と続きます。

散歩をする人も富士山に登る人も歩いているという点では同じです。その違いは、「目標」を持って歩いているかの差です。散歩をする人は、漫然と歩いているだけですが、富士山に登る人は、入念に準備をして装備を固めて着実に一步一步山頂を目指します。つまり、歩いている行為はまったく同じでも、「目標」を持っているかどうか、「結果」につながるかどうかの分かれ道だということです。結果的に何かを達成する人も、毎日精一杯仕事をしています。そうでない人の中にも精一杯仕事をしている人はたくさんいます。目の前のことに精一杯頑張ることは大切です。しかし、それはひょっとしたら、必死で「散歩」しているだけかもしれません。

皆さんも将来の夢や大学進学目標を持って勉強している人がたくさんいると思います。中には、ただ言われたままに勉強している人もいるでしょう。「頑張ったかどうかの違いでなく、目標に向けて頑張ったかどうかの違いが大切である」とこの言葉は教えてくれています。

せっかく頑張るなら目標を立てる。明確な目標を立てるのに時間がかかるなら、まずは、ぼんやりとこの辺りかなという目標を立て、行動を起こす。近づけば、目標の輪郭がはっきりしてくるでしょう。後期課程の皆さんは進路という目標がはっきり見えてきていると思います。前期課程の皆さんも目標を立てて、それに向かい努力を続けてほしいと思います。

昨日、期末考査・卒業考査の答案が返却されました。テストの点数に一喜一憂することなく、同じ失敗を二度繰り返すことのないようにしてください。そして、三者面談では、自分の頑張った点やこれからの課題を明確にし、新たな気持ちで目標を決め、地道に頑張してほしいと思います。そのためには、今後も学芸ノート「TDN」を活用し、PDC Aサイクルをしっかりと確立していくことが大切ではないでしょうか。

新しい年を迎えるという節目にあたり、目標を持ち努力を続けることで自分の成長につなげてください。3学期の始業式、1月8日（火）には希望に輝く元気な姿で会いましょう。